

「太陽」・・・新しい何かを生み出すため、私たちが利用できるただ一つのエネルギーである。物理化学的に利用可能なエネルギーや資源は、すべて太陽がもたらしたものである。そして、私たちの『脳』が創造性を発揮するときもまた、エネルギー源は『太陽』なのである。それにも関わらず今までの建築・都市は『太陽』という制御困難な対象をできる限り排除し、安定し集積した環境をつくることだけを指して進められてきた。そんな錯誤を繰り返してきた結果、東京、そして地球は、その『持続可能性』を失ってしまっている。

今こそ『隔絶 (Isolation)』という既存のパラダイムから脱却し、新しいコンセプトが必要である。2050年、2100年・・・ずっと続く未来において、私たちの暮らしが持続可能であり続けるためには、ここ東京で私たち自身が新しい価値を生み出していかなければならない。未来をつくる創造性を育み、持続可能な地球・社会の基盤となる建築モデルのコンセプトとして、私たちは『浸透 (Penetration)』を提案する。『太陽』のエネルギーを、建築の奥深くへと、脳の大奥深くへと。

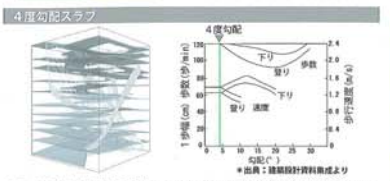


4つのモード、モードチェンジ
『感じる脳』の《興奮・沈黙》を縦軸に、『考える脳』の《拡散・収束》を横軸にとることで、脳の状態をマッピングできる。脳活動を記述するこの平面に領域化された4象限こそが、創造的活動の4つのモードである。

提案する建築モデル『Penetration Cube』は、この創造的活動の4つモードを増幅し、モード間のスムーズな移行を促す。制御困難な『太陽 (自然)』がもつムラは、和らげられたり、強められたりしながら、建築の奥深くへと浸透する。用意された多様な場において、予測不能なムラを五感への刺激として受容した脳は、さまざまな部位を賦活させる。その広範囲な発火のネットワーク連鎖していくことにより、新しい何かが発見される。

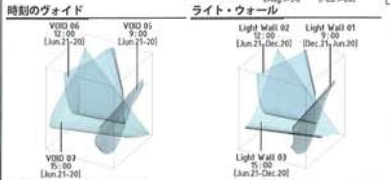
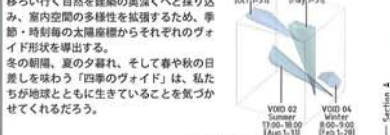
そして、ダイナミックに変化する一人一人のモードは、時に重なり、時に衝突しながら、個人として、集団としての創造性が極限まで高められていく。

自然のムラをそのまま活かす、創造のエネルギーへ変換するこの建築モデルは、人と環境とが共生する未来世界において、普通の建築原理となるであろう。



「丘」を思わせる緩やかなりな床は、歩く速度に影響を与えない4度勾配のルートと、それをショートカットするEVやステップといった多様な道選択の組合せにより、モードチェンジに自由度と速度変化を与える。『Beyond the hill』、さあ丘を越えて、その先へ

四季のヴォイド、時刻のヴォイド、ライト・ウォール



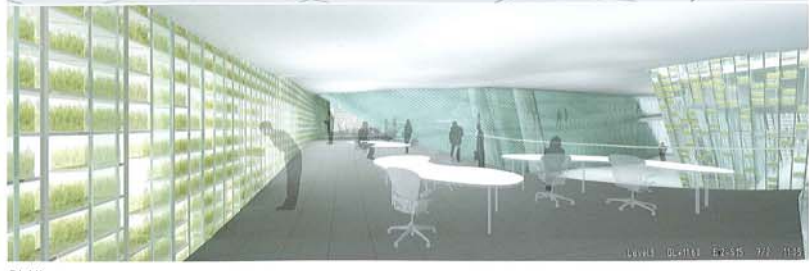
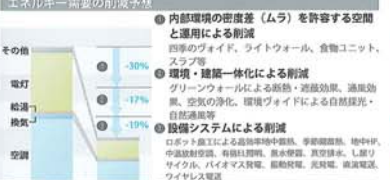
時刻のヴォイドに隣り合うライト・ウォールは、ガラス層の遮入により透光性が付与された構造体である。この壁は1年間を通して特定の時刻 (9:00、12:00、15:00) を知らせるように光り輝き、自然がもつリズムを建築内部へと引き込む。

クリーンウォール

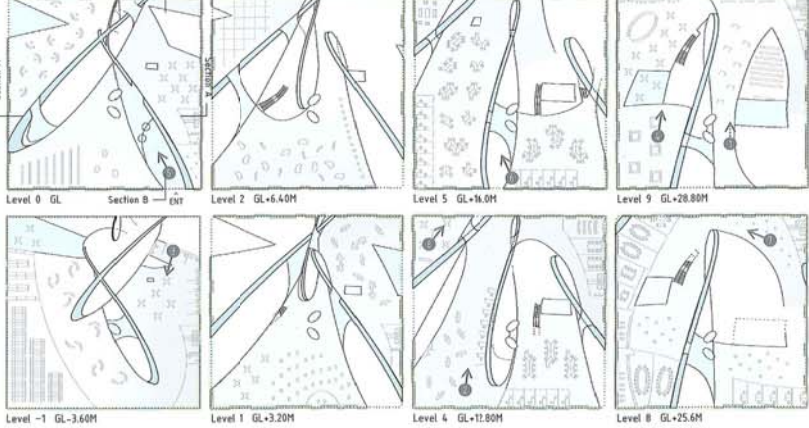


外皮は300mm立方の食物ユニットで構成される。個人個人がユニットを自由に置き換えることで、最適な環境をつくりだす。また、食物ユニットを回転させることにより四季折々の気候に適した性能を発揮することができる。

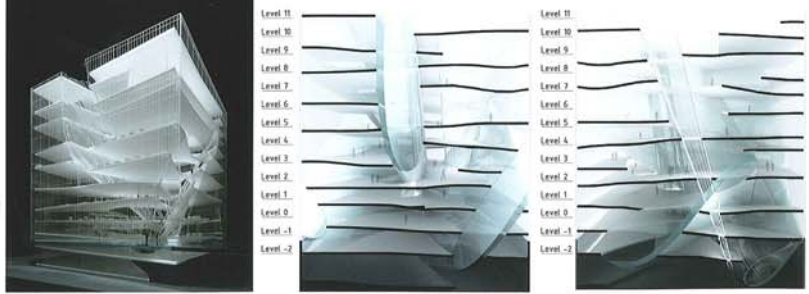
エネルギー需要の削減率



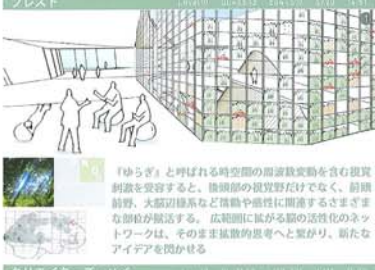
PLAN



MODEL PHOTO



照度解析



クリエイターズ・ハイ



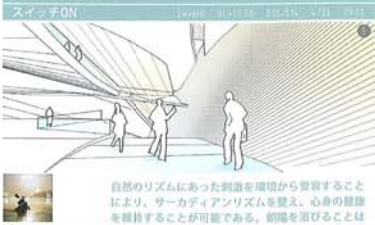
隔人的ワーク



知的集積



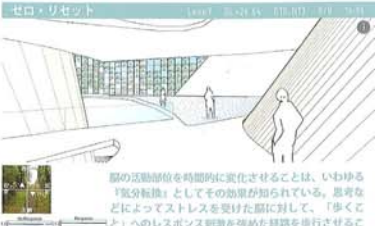
モードチェンジ



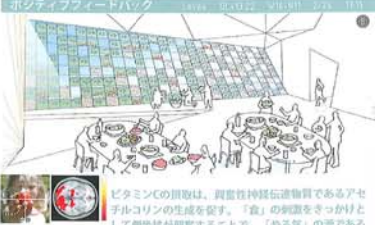
モード・シフト



ゼロ・リセット



ポジティブフィードバック



汗かきモード (夏期) 毛穴あきモード (中期)